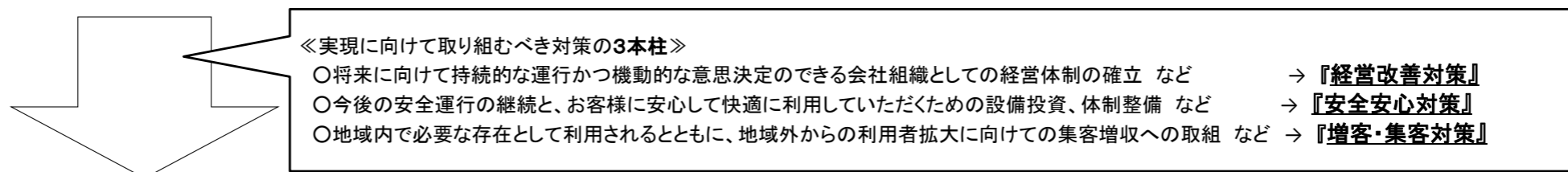


北部地域総合公共交通検討会 中間とりまとめの全体スキーム

資料2

めざすべき 将来像	愛されるKTRへ ～乗って守る・来てもらって守る～
	<p>沿線地域の人々が誇りを持って、いきいきと暮らし続け、域外の人たちに自慢できる、地域に愛される鉄道としてその価値をしっかりと発揮できるように、安全を確保し、安心して使える設備水準でしっかりと後世につないでいく。</p> <p style="text-align: center;">実現に向けた視点</p> <p>○ 便利で魅力的で乗りたくなる、地域の人々・企業から必要とされる鉄道へ(空気を運ぶより利用されてこそ) ○ KTR(鉄道・駅)を核としたまちづくり(駅周辺に目的地が集まり、駅への足が便利なまちづくり)</p> <p>○ 信頼される経営を進める企業体質の実現(品質管理など会社の頑張っている姿が見えるように) ○ 全国の人たちが北近畿(沿線)に足を運ぼうと思う地域・鉄道へ(沿線地域外からの人たちにしっかりPR)</p> <p>○ 地域全体で支える仕組み、機運の醸成(地域住民のみなさんが危機意識を持って)</p> <p>今後とも、人口減少や少子高齢化の進展は避けられず、京都縦貫自動車道の全線開通など、KTRを取り巻く厳しい環境を乗り越えるため、危機感を持って、本気で対策を取らなければ、いずれ厳しい選択を迫られることになりかねない。</p>

指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 使いたい・乗りたい度、便利度のアップ(移動時間の短縮、バスとの接続比率、車両冷房更新率など) ● さすが度(安全安心)のアップ(責任事故ゼロ(H23末現在15年連続)の更新、設備投資計画の実施状況(達成率約13%(H24末見込)など) ● 地域の魅力・元気のアップ (駅勢圏人口126,053人(H22国勢、H18事業所)、観光入込客数5,365千人(H23丹後広域振興局管内)、地域との協働事業の件数59件(H23協働事業実績)など) ● 知ってる度のアップ(全国・京阪神での認知度(メディア露出回数(新聞掲載81件(H23)、地元広報紙での記事掲載70回(H23)など) ● 自慢度(誇り度)のアップ(風光明媚で京都一長い橋りょう、高校生の乗車マナー度など)
----	---



課題解決への取組	1 経営改善対策	2 安全安心対策	3 増客・集客対策
24年度	<p>◎ 会社の機動的な意思決定・業務執行体制の確立に向けた経営体制刷新の検討開始</p> <p>○ 本社と運行本部の統合をはじめ、コストの構造改革のための社内組織の見直し着手</p> <p>○ 会社への自治体支援スキームの見直し(上下分離的発想の導入)</p> <p>○ 社員の意識改革(おもてなし、コスト削減等)</p>	<p>◎ 安全運行維持のための軌道等設備への投資</p> <p>◎ 魅力があり快適性が確保出来る車両への投資</p> <p>○ 京都・大阪方面との直通・接続特急の維持確保、利便性の向上に係る検討</p>	<p>◎ 分かりやすく利用しやすい運行ダイヤの導入と二次アクセスの向上に向けた検討</p> <p>○ 駅のにぎわいづくりに向けた検討</p> <p>○ 観光地等地域の情報発信の強化</p> <p>○ マスメディアやウェブの積極活用による情報発信</p> <p>○ 地域との連携強化、マイレール意識の向上に向けた取組</p> <p>○ 自治体職員の率先した利用活動</p>
25年度	<p>○ 会社の機動的な意思決定・業務執行体制への移行</p> <p>○ 社内組織の改編</p> <p>○ 利用状況の分析などマーケティング体制の確立</p> <p>○ 計画的な世代交代(技術継承等)の仕組みの確立</p>	<p>○ 計画的な設備投資の実施</p> <p>○ 計画的な車両更新(リニューアル・冷房設備)の実施</p>	<p>○ 分かりやすく利用しやすい運行ダイヤの導入と二次アクセスの向上</p> <p>○ 駅を中心としたまちづくり、観光地の魅力向上に向けた検討</p> <p>○ 新駅設置の検討</p> <p>○ 京都縦貫道全線開通への対応策検討</p> <p>○ 通学や学校行事での利用拡大に向けた取組</p>
26年度以降	<p>○ JRとの協力関係のあり方の検討</p>	<p>○ 電化施設の有効活用方策の検討</p>	<p>○ 魅力的な観光地・まちづくりの推進</p>

愛されるKTRの実現に向けた対策は、概ね2ヶ年に当面する施策を中心に例示をしたが、やれるものから早急に着手し、それらを逐次評価し、見直しを加えることが必要となる